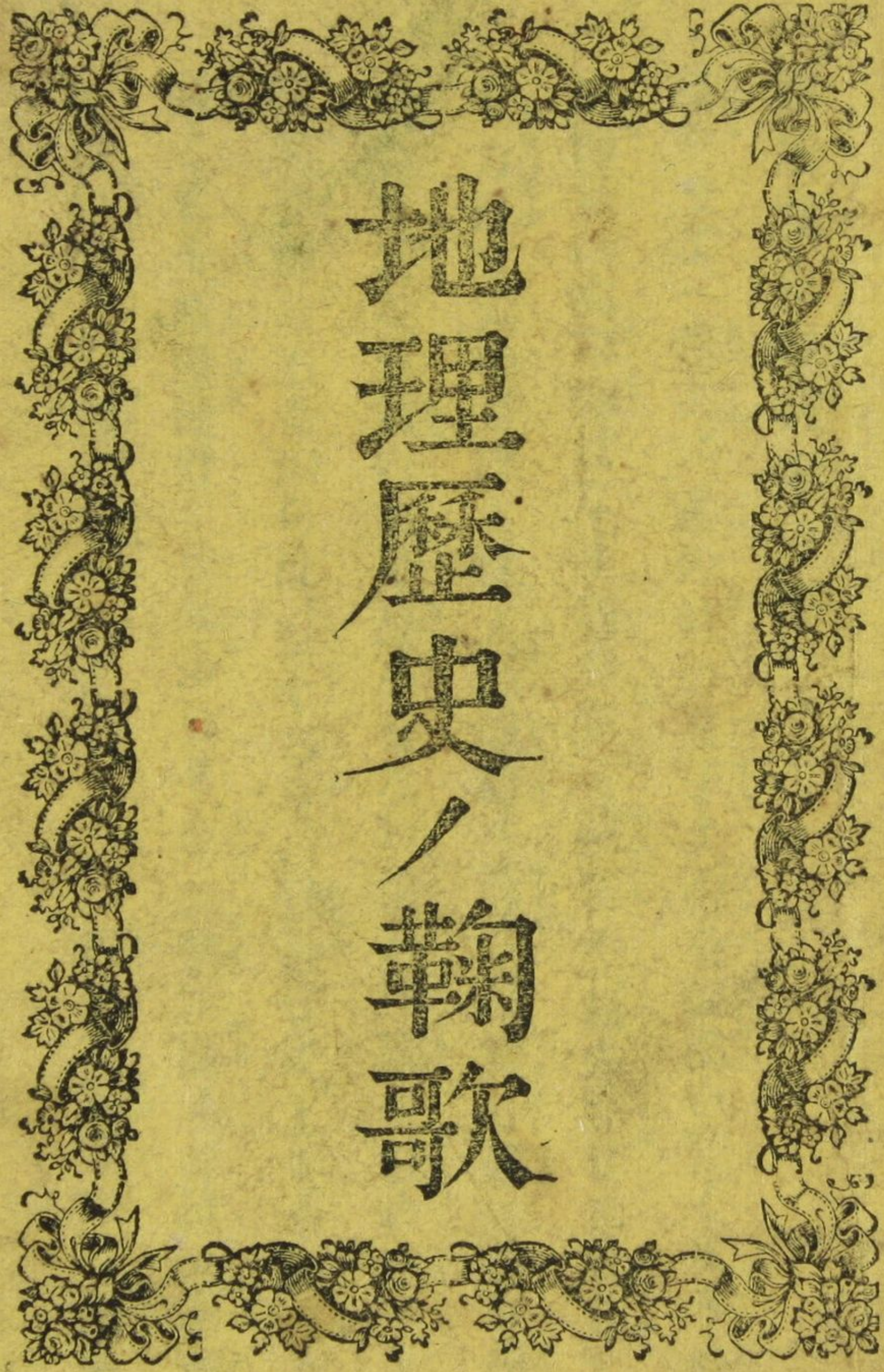


地理歴史ノ鞠歌



地理歴史の鞠歌の序

學まなべやまなへ諸もろとも共に。國くにの柱はしらの童子わらはへよ。假令たとへ課業くわげふの繁しげくとも。修ため得えられぬ事業じわざはな一。石いしを貫つらぬく雨あまたれ車ありや。蟻ありの穿うがてる穴あなみ見みても。力ちからたゆ撓たゆまぬいさほ一は。人ひとの覺悟かくごも及およぶ。勉つとめて學まなべいざ學まなべ。國くにの爲ためなり君きみのため。學まなべやまなへ諸もろとも共に。國くにの柱はしらの童子わらはへよ。師父しふの教をしへのあるからは。軍いくさする身みの覺悟かくごせよ。よ一や雨あまよ夜の暗くらくとも。吹雪ふぶきはけ一き冬ふゆの日ひも。學まなひの爲ために通かよふのは。物ものの數かずかは何なんのろの。勉つとめて學まなべいざ學まなべ。國くにの爲ためなり君きみのため。學まなべや

まなべ諸共もろともに。國くにの柱はしらの童子わらはべよ。地理ちりや歴史れきしは我々われが。矢竹やたけで
 いろのある限りかぎり。皇國みくにを守まもるてだてとて。教をしへられたるもの
 なれば。昔由來むかしゆらいのある土地とちや。世々よよの治乱ちらんのあらまゝは。勉つとめて
 學まなべいざ學まなべ。國くにの爲ためなり君きみのため

明治十九年十月

編者 玄 爾 氏

五十音の日本地誌歌

あの字とやー

ア一マッヒツギ ヒノモト
天津日嗣の日本はー

いの字とやー

アジア
亞細亞のひがーのはなれぐにー
アマリヨウ
いきほひたーけき雨龍のー

うの字とやー

ウチハラシメン
海原四面をとりかこみー
キコウ
氣候のどかに地味あつー

の字とやー

蝦夷エーゾ乃はてよりほどちかくく

魯細亞ロシヤの領地の「カムサツカ」

れの字とやー

凡日本オーヨロニホンの人数はく

三千七百有余サンセンシチヒヤクユウヨマン方く

かの字とやー

かそへて八十四ヶ國ハチジフシはく

七百二十シチヒヤクニジフの郡コホリなりく

きの字とやー

北キタより南ミナミのさーわたーく

四百八十五里シーヒヤクハチジウゴリあまりく

五十音の日本

くの字とやー

くーにのみやこのをもなるはく

東京トウキヤウ西京サイキヤウ大坂府オホサカフく

けの字とやー

けだかき伊勢イーセの大神宮ダイジングウく

日光出雲ニツコウイズモの大神オホヤシロ社カく

この字とやー

構造コウゾウむるいの佛閣ブツカクはく

本願智恩ホンガンチナンや善光寺ゼンカウジく

さの字とやー

三大川サンダイセンとは利根川ト子ガハとく

石狩川イシガリカハや信濃川シチノガハく

一の字とや一

シヨクキエシユウホツカイドウ
四國九州北海道

二の字とや一

ホンド シダイタウ
本土にあはせて四大島

すの字とや一

メイシヨ マツシマ
すぐれ一名所は松島と

三の字とや一

アーマ ハシダテイツクシマ
天の橋立巖島

せの字とや一

センコ センシヤウ
千古になだかき戦場は

四の字とや一

ヤシマ クリカラミナトガハ
屋島に栗殻湊川

五の字とや一

ツクリヨク
速力はげ一きながれとは

六の字とや一

フジカハタマガハモカミ
富士川球麻川最上川

たの字とや一

カミヨ ミサギ
たうとき神代の山陵の

七の字とや一

シヨザイ オホスミヒ フガ
所在は大隅日向なり

ちの字とや一

チシマ サンミヤク
千島の山脈はびこりて

八の字とや一

ゼンコクシヨザン
全国諸山の脈となる

九の字とや一

ツクシ
筑紫のは一てのうら

十の字とや一

チシマ
を一なじ千島の脈をひく

十一の字とや一

チイト ヤマト
帝都のはじめは大和にて

十二の字とや一

ジンム ミカド ミミヨ
神武の帝の御代なるぞ

との字とやー

遠き天武の御代とかやートウ テンム ミヨ

諸國の境をさだめらるシヨコク サカイ

なの字とやー

長崎神戸横濱とナガサキコウベヨコハマ

函館新潟五港なりハユダテニヒガタゴコウ

にの字とやー

日本に名のある産物はニホン ナ サンブツ

金銀五穀や茶に陶器キンギンゴク コク チャ タウキ

ぬの字とやー

塗物織物彫物はヌリモノナリモノホリモノ

畫にさぬうつせぬたくみありエ

ねの字とやー

粘氣つーよき紙類やチベリケ カミルイ

生糸は世界に名あるキイト セカイ ナ

のゝ字とやー

長閑さ景色をかぞふればノドケ ケシキ

三保の松原田子の浦ミイホ マツハラタゴ ウラ

はの字とやー

箱根熱海や四万有馬ハコネアツミ シマアリマ

草津伊香保は温泉場クサツイカホ チンセンバ

ひの字とやー

ひーかりかやく大君のオホギミ

大稜威の兵士は七万余ミイヅツ ヘイシ シチマンヨ

ふの字とやー

富士フジに白山立山ハクサンタテヤマはく

御國ミクニになだかきサンダイザン三大山く

への字とやー

平安城ヘイアンシヨウとは京都府キヤウトフのく

ふーるきとなへとーりぬべーく

ほの字とやー

ほまれもたーかきヨユスカ横須賀はく

東洋トウヨウむるいの造船場ゾウセンシヤウく

まの字とやー

まなびのみーちのたどりよくく

一万五千イチマンゴセンの小學區セウガククく

みの字とやー

みやこのこすうは二十万ニジフマンく

人口シンコウヒヤクマンゼンゴ百万前後なりく

むの字とやー

むるいの湖水コスイは琵琶湖ヒハハコとてく

周回シユウクワイ七十三里シチジウサンリありく

めの字とやー

めにたつけむりのたなびくはく

那須トースと淺間アサマの噴火山フンクラザンく

もの字とやー

もーゆる火山クラザンは數カズをほーく

阿蘇山アソ立山ヤマタテヤマ櫻島サクラシマく

やの字とや一

ヤーマトアシハラミツホ
倭 蘆原瑞穂とはく

わがひのも一とのとなへなりく

いの字とや一

イーヅ シモダ トウナン
伊豆の下田の東南にく

ナ、 シーマ
七ツの嶋のとなへありく

ゆの字とや一

ユードン グラツサン ハ グロザン
湯殿月山羽黒山く

ツゼン
羽前になをゑ一やまなるぞく

ゑの字とや一

エンギ
延喜のころより奥羽路はく

レキシ
歴史にゆらいのゑる地方く

よの字とや一

よに一られ一たる更科はく

の字とや一

タゴト ツキ
田毎の月てふ名所なりく

らの字とや一

ラン
乱をへさむる兵營はく

の字とや一

トウト
東都のほ一かに五鎮臺く

りの字とや一

リヤウ セ
龍の背となる北陸にく

の字とや一

サンダイサリン ニ
三大山の二をたもつく

るの字とや一

カウザン
るいなきみくにの鑛山はく

の字とや一

イクン キンホクアシチ ヤマ
生野に金北足尾山く

れの字とやー

レイブンマ シエウ アカンダケ
禮文摩周に阿寒岳く

ろの字とやー

カニカンノボリ エヅ
蟹寒登は蝦夷のやまく

ろの字とやー

ロウ
老をやーのふいづみとてく

ろの字とやー

ミシノ
美濃になだかき瀑布ありく

わの字とやー

わがひのもーどのはなれじまく

わの字とやー

リウキウシヨトウ ナガサハラ
琉球諸島や小笠原く

わの字とやー

イキナキツシマ サダガシマ
壹岐隱岐對馬や佐渡嶋く

わの字とやー

サツマ ミナミ
薩摩の南のたねがーまく

うの字とやー

うらくーまくかぞふれはく

うの字とやー

つたなきふではたよぶまじく

ゑの字とやー

ゑーがきつくせぬくにくの

ゑの字とやー

メイシヨ コセキ
名所や古蹟はなほをほーく

をの字とやー

チシハ
教のてだてとなさばやとく

チシウ ヲタ
かきあつめーたる地誌の歌く

歴史乃歌

いし字とやー

よの字とやー

との字とやー

いにーへよーりの世々ヨのあとく

御國ミクニの人は尋ね見よく

よろなる國クニにたぐひなきく

萬世絶ヨロズヨぬ大日本オホヤマトく

遠トホき神代カミヨのあと承ウけてく

國クニをかたむる神武帝ジンムテイく

いの字とやー

いこまのやーまをこね入りてくイ

都ミヤコをうねびに定めらるくサダ

るの字とやー

累代ル井ダイつたへー御寶ミタカラをく

祭りー皇キミは崇神スジンなりく

りの字とやー

りーくと舟路フナヂに長いたーくチサ

おらゆるくーにを言向けーくコトム

ーの字とやー

臣シニンの殉死ジュコンシをとめーはく

垂仁帝ス井ニンテイイのいつくーみく

みの字とやー

溝ミヅを開きて灌漑クワンガイにく

便ベインせられーもこの帝ミカドく

どの字とやー

土偶ドグウのはじめの土師ハニシとはく

野見ノイミの宿禰スグチのことなるぞく

その字とやー

賊ゾクかあちこち打ウチらむきく

みくにをさわかす事コトのうさく

さの字とやー

さい方熊襲ハサクマンの梟師タケルをはく

さー、武勳イサナの日本武ヤマトダケく

けの字とやー

景行一世のいさほーはく

の字とやー

西と東の御征伐く

つの字とやー

盡せぬ治國の規模たてく

の字とやー

天下無事なる成務帝く

いの字とやー

異域の新羅や高麗百濟く

の字とやー

貢を約せー皇后きみく

みの字とやー

御國に唐書渡り來てく

の字とやー

國にひろめー譽田別く

けの字とやー

烟稀なる賤が家をく

の字とやー

あはれみたまひー大鷓鴣く

ぎの字とやー

儀禮もえばーは打絶ゑてく

の字とやー

佛法大に行はるく

るの字とやー

類なき義勇の鎌足をく

の字とやー

社稷の柱となす天智く

ちの字とやー

治乱興敗定めなきく

の字とやー

世々の歴史のことえげーく

一の字とや一

神勅守りシンチヨクマモ一清磨キヨマロの一

忠義チウギの真心マゴハロヨ世タカに高一

一の字とや一

玄ミチサ子一ミチサ子るミチサ子さいミチサ子いミチサ子さをミチサ子の道真ミチサ子が一

何故延喜ナニユヘエンギに捨ステられ一

一の字とや一

至極シゴクの治世チセイと名高ナダカきは一

天歴延喜テンリヤクエンギの時トキと玄一

れの字とや一

例なき威勢レイの藤原氏フヂハラシ

武門ブモンの名ナを得ウる初ハジメなり一

りの字とや一

陸羽リクウの頼時ヨリトキ貞任サダトウの一

戦タカヒヤア敗ゼンクるチン、前九年一

むの字とや一

陸奥ムイツの鎮守チンジュの義家ヨシイヘが一

武衡等タケヒララを討ウつ後三年ゴサンチン

むの字とや一

無類ムル井比院イン宜四十年ゼンシマエウチン

保元平治ホウゲンヘイヂ比乱ランとなる一

るの字とや一

類族相須ル井ゾクアヒマつ清盛キヨモリが一

専横センアウテンカ天下ワタクシを私一

すの字とや一

勝れ一武勇スグ比頼朝プがユウくヨリトモ

らの字とや一

平氏をヘイジ亡ホロボす壇浦ダンノウラく

ふの字とや一

乱逆ランギヤクシ四方ハウに平ダイラぎてく

すの字とや一

政權セイケンキ歸チヤク着カマクラフす鎌倉府カマクラフく

すの字とや一

府政フセイを政子マサコ比手テにとりてく

すの字とや一

ふた、び源家ゲンケをくつがゐすく

すの字とや一

數萬スマン比モウトウゲン鱧モウトウゲン元モウトウゲン比モウトウゲンあだく

すの字とや一

一戰イツセンウチカ打勝ホウジヤウシつ北條氏ホウジヤウシく

すの字とや一

忍シンびたねなん高時タカトキ比タカトキく

すの字とや一

暴慢ボウマンケフギヤク兇逆ボウマンケフギヤクたゝならずく

すの字とや一

瑞夢ズイムに得エたまふ正成マサシゲ比マサシゲく

すの字とや一

義兵ギヘイも及チヨバぬ世ヨ比ミダ乱れミダく

すの字とや一

連綿レンメンツタ傳コウトウぬ一皇統コウトウをくく

すの字とや一

足利アシカ尊氏タカウジニ二派ハとなすく

すの字とや一

救スークひあふせで後醍醐ゴダイゴがく

すの字とや一

ふた、び芳野ヨシンにをん行幸ミユキく

きの字とやー

北キーメと南ミナミは皇統コウトウをく

合アハすは後ゴ小松コマツ後ゴ龜山カメヤマく

まの字とやー

學マナビは手術テダテや法則ノリ乃ミチ道く

社シヤクワイ會キ乃リツ規ダ律ダは絶タえにけりく

りの字とやー

倫理リンリ上シヤウカ下ミチ乃ミチ道ミチもなくく

海内カイダイ分ブン烈レツ修羅シユラはくにく

にの字とやー

憎ニクみて余アリマる足利アシカ乃カく

横逆ヨウギヤク合アハせて十三世ジユウサンセイく

いの字とやー

勢イキホヒタノモ頼母ノアナガ一ナ信長シノナガ乃く

覇業ハゲツも半ナカバにたゑたりく

ーの字とやー

主家シユウカ乃タイラうらみを平タイラげてく

偉業ヱゲツをたてたる豊太閣ホウタイカフく

ふの字とやー

不世フーセイ出シユツなる秀吉ヒデヨシ乃く

雄畧イフリヤクト轟ウミく海ソト乃外く

どの字とやー

時得トキエて名ナを爲ナす家康イヘヤスがく

二百ニヒヤク余年ヨ乃チ治ヒラを開くく

くの字とやー

國クニの兵ヘイ戈クワの後アトを絶タつ

らの字とやー

をセキはりハラれいくさは關セキヶ原ハラ

ふの字とやー

乱ランを治チめー家康イヘヤス乃

みの字とやー

政事セイジにうるほふ御代ミヨ乃民タミ

ろの字とやー

滿ミツれは闕カクる習ナラヒとて

この字とやー

幕政バクセイ乱ランる、文化ブンクワ頃ゴロ

この字とやー

魯西亞ロシ英ア吉イ利ギ亞リス米ミア利リ加カ等ラ

連シキリに通信ツウシン互市ゴシを請コウふ

ふの字とやー

ふりにー御國ミクニ乃規ナキ律テとて

一の字とやー

攘夷ジヤウイを稱トナふるも乃多オホ

一の字とやー

繁シイき國事コクジ乃治チまりて

るの字とやー

明治メイヂ乃春ハルとろなりハルにハルなる

との字とやー

類ルイなき御代ミヨとはハルなりハルにハルなり

との字とやー

日毎ヒゴトにハルひらハルくる政事マツリゴト

この字とやー

外國トクニ人も集ツドひ來キて

この字とやー

昔ムカシにシ知らシれぬ御代ミヨ乃幸サチ

ちの字とや

千歳チトセ乃ヒトむラるベにタ比ク較ラてベく
開ヒけト行ラくユ世ヨにチ後クるナくク

明治十九年十二月九日版權免許
同 年同月出版

定價金四錢

編輯人

埼玉縣士族 東 爽 章

出版人

武藏國北足立郡浦和宿
四百一番地寄留
長野縣平民 松 井 熊 吉

同

埼玉縣平民 中 村 朝 次 郎
同國同郡同驛三百
卅七番地



